

食品中の放射性物質検査結果

平成23年3月に、東日本大震災による福島第一原子力発電所事故がおき、食品中の放射性物質検査が急務となりました。そこで、横浜市衛生研究所においてもガンマ線核種分析装置を導入し、平成23年7月から検査を行っています。

平成28年度に当所で行った食品の検査結果は表1、表2のとおりで、基準値*を超えた検体はありませんでした。

※ 放射性セシウム(Cs)の基準値(Cs-134とCs-137の合計)

乳児用食品:50Bq/kg、飲料水:10Bq/kg、牛乳:50Bq/kg、一般食品:100Bq/kg

表1 検体の種類

検体の種類	説明	検査検体数	放射性Cs検出検体数
市内産農産物	横浜市内産の農産物	28	3
市内産水産物	横浜市内漁港水揚げの魚介類	60	0
市内産畜産物	横浜市内産の原乳	4	0
市内量販店流通食品	横浜市内で流通している食品	50	1
小学校給食	米類及び牛乳など	338	1
合計		480	5

表2 検査結果

検体の種類	検査検体名 []内は検体数	放射性Cs検出検体 []内はCs検出検体数	結果(Bq/kg)		
			Cs-134	Cs-137	Cs合計
市内産農産物	うめ[1]、かき[1]、かぶ[1]、かぼちゃ[1]、キャベツ[1]、きゅうり[1]、玄米[1]、こまつな[2]、さつまいも[1]、しいたけ(生)[2]、だいこん[2]、たけのこ[1]、たまねぎ[1]、トマト[1]、なす[1]、日本なし[1]、にんじん[2]、ねぎ[1]、はくさい[1]、ばれいしょ[1]、ぶどう[1]、べかな[1]、みかん[1]、レタス[1]	しいたけ(生)[2]	—	5.20	5.2
			—	2.19	2.2
		たけのこ[1]	1.08	6.10	7.2
市内産水産物	アカカマス[2]、イボダイ[5]、ウミタナゴ[1]、カナガシラ[4]、キチヌ[2]、コショウダイ[4]、シリヤケイカ[4]、シログチ[11]、スズキ[2]、タチウオ[9]、ヒラメ[3]、ヘダイ[1]、ホウボウ[2]、マアジ[1]、マサバ[1]、マダイ[2]、マルアジ[6]	—	—	—	—
市内産畜産物	原乳[4]	—	—	—	—
市内量販店流通食品	果汁入り飲料(乳児用食品)[2]、牛乳[15]、粉ミルク[7]、米(精米)[4]、清酒[3]、清涼飲料水(乳児用食品)[4]、鰯[1]低脂肪牛乳[2]、トマトジュース[1]、ベビーフード[7]、無脂肪牛乳[3]、レトルトご飯[1]	牛乳[1]	—	1.27	1.3
小学校給食	あずき水煮[1]、牛乳[178]、米[85]、胚芽米[27]、発酵乳[3]、麦[43]、もち米[1]	米[1]	—	0.635	0.64

【 理化学検査研究課 環境化学担当 】